

—写真訪問②—

紋 別 測 候 所

記録ホルダー「紋別測候所」

日本一 535 ……………?

全道一 8 ……………?

1 はじめに

さて、上の数字、冒頭からクイズで恐縮ですがなんの記録か分かりますか？

ヒントはmm、%です。答えは、全部読んでいただいてから！

気象学会事務局の田島さんから「紋別測候所を紹介するから原稿を送れ」と言われ困った。気象学会には気象官署の会員が多く「紋別知ってるよ」と言われそうであるし、どうしたら広く会員諸氏に読んでいただけるか悩んだ。

小生も平成2～3年に田島さんと同じ立場に居たことでもあり、断わるわけにもいかないし……！ヨーン敢えて、やわらかく書かせてもらおう。気象学会誌の品位を落さなければ良いが……。

2 おいたち 41歳

紋別測候所の創立は昭和31年1月1日で、今年、41歳の働き盛りである。

測候所としては珍しい紋別空港分室がありこちらは、10歳若い昭和41年5月1日生まれ。

誕生の背景は次のとおり。

紋別市は市部では全国5位の広い面積を有し、オホーツク海の漁田開発の基地として、また、管内8町2村面積1,240km²に及ぶ産業、経済、文化の中樞をなす。

これら市町村の経済基盤は紋別市を中心とする漁業・農林業に依存するところが多く、そのため、早くから気象官署の設置が要望され、ようやく昭和30年に至りその必要性が認められ、翌31年に開設された。

3 ところ 特等席

たいがいの気象官署が街外れの小高い場所にあるが、ここ紋別でも例外でなく、市街の南、港湾まで500mを切る標高15.8mの南が丘という所に建っている。

庁舎は単独、平屋建であるが3階造りの測風塔があるうえ、昭和57年に測風鉄塔(地上高18m)を付け足したのでノッポである。

測風塔からの眺めはすこぶる良い。紋別の港、市街地、大山スキー場、紋別公園などが360°パノラマだ。花火大会の時は測風塔が特等席となる。

構内敷地は、約6,000m²(≒1,800坪)もあり、広々としていて草刈り等環境維持は大変だが、子供さん達にとっては格好のグラウンドとなる。また、生物季節観測(後述)に誠に適してる。

職員数は本所8名、空港分室3名であるが、構内に運輸合同宿舎があり、紋別海上保安部の方4軒が一緒

なので賑やかである。

花見は構内で行い、15家族に案内するが、広いから全家族来ても OK である。しかし残念ながら、単身赴任者、独身者が多く構内の片隅で十分こと足りている。

4 しごと 海氷はまかせて

(1) 観測が主であるが、観測にも次のような種類がある。

ア 地上気象観測

気候観測 気候調査を主な目的とする観測。

通報観測 毎日定時に行う通報のための定時通報観測 (09時、15時)。

*21時に定時観測しているが、通報はしていない。

台風、雷雨等に関する予報のための臨時通報観測。

イ 海洋観測

沿岸の定位置において海氷の状態について観測を行う沿岸海氷観測。

毎日10時に測風塔から海を眺め海氷の分布状態、氷の種類、量などをスケッチした上、通報する。

そのほか、流水初終日、海明け、接岸等氷に関わる統計は資料の宝庫みたいにある。過去に観測していた海水温、比重のデータも大事に保管している。先輩諸兄ご安心あれ。

ウ 生物季節観測

さくら、水仙、もみじ、あじさい、カッコウ、モンシロチョウ、セキレイの開花、初見、初鳴などを記録し、その年の季節の遅れ、進みを見るとともに総合的な気象状態の推移を観測する。

約20km 離れた紋別空港付近も対象にしている。

*地震：過去に震度3が4回あったきりで、おとなしい土地である。

(2) 予報・通報 牧草刈りはいつ？

農林業関係者は長期予報に対する関心が高く、電話による予報・資料照会が多くある。特に、牧草の刈入れが年2回はあり、そのころ、早朝から詳細な予報の問い合わせが多くなり解説に気を遣う。なにしろ、牧草を刈り、広げ、乾かし、取り込むまでには最低でも3日は必要とされ、その間、雨がポツリポツリ降っても品質が落ちるのでダメ。誠に厳しい注文？がある。

また、昨今は外国船の紋別入港が激増し、平成8年はロシア船を主に約1,200隻もの漁船・木材船などが出入りし、流水期の航行にはヒヤヒヤしている。

気象情報の解説にも力が入る。

(3) 通信 ゲレンデの音楽が

測候所の西約3kmに大山という標高334mの山がある。その頂上に紋別山無線中継所(無人)があり、気象官署間のVHF無線電話(複信)の重要な取次ぎをしている。この子守も当所の重要な業務の一つだ。

この山にはスキー場があり、リフト2本を乗り継げば頂上で、流水をめがけて滑る壮快感はたまらない。



写真1 冬の露場から見た紋別測候所



写真4 紋別山中継所（局舎と鉄塔2基）



写真2 測風塔から見た風景、外海は流氷群



写真3 現業室（80観測装置の上は温風ダクト）

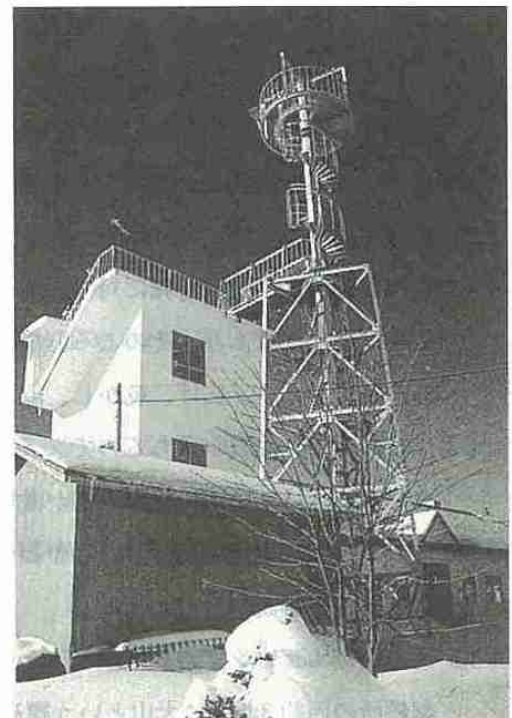


写真5 ノッポの測風塔と測風鉄塔

(4) 地域サービス 身長は？

地区予報の解説、気象情報の有効な発表・通報はもちろぬのこと、そのほか、地域住民からの資料照会、講演会等の要請があれば可能な限り対応している。

また、毎年施設見学会を開催し市民の皆さんに気象に対する理解を得るよう努めている。おちびさんたちを主役に70名位の人が来てくれる。積雪深計を使ってこの身長測定は人気の的。

5 その他 通勤30秒

構内に職員11名全員の宿舎があり、通勤時間30秒。分室の人はもうちょっと!?かかる。

月1回(給料日)は昼と夜!に打合せ会をし、和もバッチリ。また、テニスコートもあり6月1日の気象記念日には、北海道大学低温科学研究所付属流水研究施設、紋別漁業無線局の人達と親睦を深めるのに一役かっている。

6 おわりに

気象学会員の方はご存じであろうが、毎年、2月には「北方圏国際シンポジウム」(日本気象学会後援)が紋別市で4日間にわたって開催され、国内外から大勢の方が参加されている。

毎年、気象庁気候・海洋気象部海上気象課の職員も来紋し、立派な研究発表を堂々と英語で行い、地元の気象人としてはスカッとさせてもらっている。気象学会員のみなさんも、流水見物を兼ねて、ぜひおいでください。氷が溶けるほど熱烈歓迎します。

[最後にお約束のクイズの答え]

「535」は紋別の年降水量の少ない値(535mm)で1984(昭59)に記録し、まだ破られていない。ちなみに、紋別の年降水量の平年値も829.3mmと少ない。

「8」は日最小相対湿度の極値(8%)で1957(昭32)5月4日に記録し、ご存じのフェーン現象によるものでした。読了感謝します。

(紋別測候所長 藤山興二)